



環境への配慮

地域から地球へ、環境保全の推進

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。



イオンモール多摩平の森

★ 4モールが建築物環境性能評価で認証を取得

2013年にオープンしたイオンモール幕張新都心は、4つの商業棟全てが国際的な建築物の環境性能評価システム「LEED認証」*1を取得しました。次世代型環境配慮型ストア「スマートイオン」の実現のため、最新鋭のLED照明設備や再生可能エネルギー発電システムの導入、節水型衛生機器および厨房除害設備の導入など、先進的な設備や仕組みが評価されました。また、既存モールにおいても継続して環境性能の向上に努めており、2006年にオープンしたイオンモールむさし村山とイオンモール鶴見緑地が国内で最も知られる環境性能評価「CASBEE不動産評価認証」*2の最上位Sランクを、2002年オープンのイオンモール伊丹がAランクを、それぞれ建物オーナーの日本リテールファンド投資法人と共同取得しました。

*1 1996年に開発された建築物などの環境性能評価において世界で最も普及しているシステムで、米国グリーンビルディング協会(USGBC)が所管している任意の認証制度。建築物全体の企画・設計から建築施工、運営・メンテナンスにわたって、省エネ、環境負荷を7つの評価項目の合計項目によって評価します。

*2 建築物の環境性能を評価し格付けするもので、省エネルギーや省資源、リサイクル性能など環境負荷低減の側面に加え、景観への配慮などを含めた建築物の環境性能を総合的に評価する日本で一番認知されているシステムです。

LEEDゴールドランク



イオンモール幕張新都心



CASBEE不動産 評価認証Sランク



イオンモールむさし村山
イオンモール鶴見緑地



CASBEE不動産 評価認証Aランク



イオンモール伊丹

★ イオンモール多摩平の森が、2例目の「いきもの共生事業所®」に

2013年にオープンしたイオンモール東員に続き、2014年11月にオープンしたイオンモール多摩平の森が「いきもの共生事業所®」認証を受けました。「一般社団法人 企業と生物多様性イニシアチブ(JBIB)」が作成・登録した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、生物多様性に配慮した緑地づくりなどの取り組みを「いきもの共生事業推進協議会」が第三者的に評価・認証するものです。

同モールは計画地にあった約50本の樹木を移植や保存することで緑地帯として整備し、4階屋上にはビオトープ「丘の原っぱ」を導入。雨水を浸透・浄化することができる「雨の庭」の設置や敷地内の雨水を全て地中に浸透させるなど、さまざまな取り組みが総合的に評価されました。



既存樹木を保存し「多摩平の森」の面影を残した歩行空間



計画地の既存樹木を活用してできた「木漏れ日の広場」



環境学習や環境保護啓発にも役立つビオトープ「丘の原っぱ」

★ イオンモール蘇州呉中が、環境評価基準制度「綠色二星」を取得

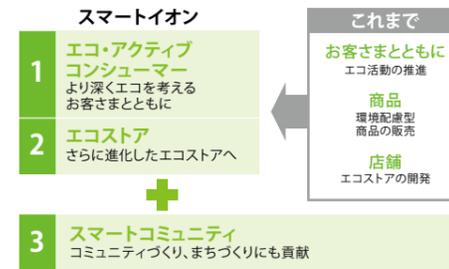
2014年にオープンしたイオンモール蘇州呉中は、周辺エリア全体が「イオングリーンアイランド」という景観都市のモデルとして開発されました。また太陽光パネルやLED照明、壁面緑化などを採用し、中国イオングループとして初めて、中国建設省が認証する建物の環境評価基準制度「綠色二星」*3を取得しました。

*3 地球環境の保護、地球資源の最大限の有効活用、環境汚染の防止などを目的とした、中国の建設省が認証する建物の環境評価基準制度。



★ スマートイオンの展開

スマートイオンとはエネルギーの効率化や防災などにまちぐるみで対応する次世代型エコストアを指し、環境目標「イオンのエコプロジェクト」が定める基準を満たす持続可能なまちづくりです。イオンモール幕張新都心は、スマートコミュニティの実現、自然エネルギーの最大活用、分散化電源による事業継続計画(BCP)拠点化などに取り組んでいます。



★ EV(電気自動車)充電器の設置拡大

地球環境の保全、持続可能な社会の実現をめざし、CO₂を排出しない電気自動車やプラグインハイブリッド車の普及を推進するため、各モールにEV(電気自動車)充電器の設置を進め、多くのお客さまにご利用いただいています。



★ イオン ふるさとの森づくり

1991年にマレーシアでスタートした「イオン ふるさとの森づくり」。新しいモールがオープンする際には、地域の自然環境に最も適した、その土地に自生する樹木をお客さまとともに植えています。2015年2月末現在、累計植樹本数は約1,087万本(グループ合計)です。



★ 自然の力を利用した取り組み

太陽光発電

イオンモールでは他の商業施設に先駆けて太陽光発電システムを順次導入し、館内の使用電力の一部をまかなっています。一部のモールでは、災害などによる停電時にも太陽光パネルで発電した電力を活用できるシステムを採用しています。



壁面緑化／植栽

モール壁面の緑化は景観を向上するだけでなく、夏季の館内における温度上昇を抑制し、冷房で使用するエネルギーの削減につながります。イオンモール岡山では、5階から7階までのオープントップ部分にステップガーデンを配した「haremachi Garden」を展開。壁面緑化も採り入れた緑豊かな憩いの空間を演出しています。



★ 公共交通機関の利用促進

イオンモールでは、電車や路線バスなど公共交通機関で来店いただける環境を整えています。特に駅から徒歩圏内のモールでは、鉄道会社や交通局と連携して電車でご来店されたお客さまに特典を提供するなど、公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進めています。また、通勤などの際にモールの駐車場に自家用車を駐車し、そこから公共交通機関で最寄駅や中心街へ移動していただく「パーク&ライド」を実施し、交通渋滞の緩和や大気汚染の低減を図っています。





環境への配慮

地域から地球へ、環境保全の推進

水質保全

排水基準を順守するためにすべての飲食店で毎日の厨房グリストラップ清掃を義務づけ、油やごみの流出防止に努めています。そのうえで、店内の厨房から油が流出する事故が発生した場合に外部への拡散を防止するための訓練を定期的に行っています。また、一部のモールでは排水を浄化するためにバクテリア分解を利用しています。培養液によりバクテリアを増殖させ、そのバクテリアが体内にリンや窒素を取り込むことによって、油分などを分解して水質を浄化します。



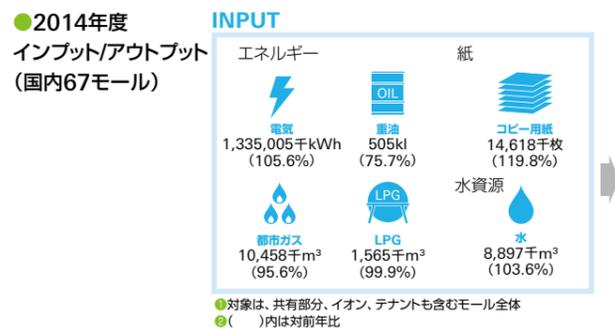
ごみ庫に設けられた防油堤

グリストラップ清掃

流出を防止する専用の油吸収剤を常備

節電対応

各モールでは四半期ごとに電力使用量の目標値を定めており、お客さまの安全や快適さに影響を及ぼさない範囲で日常的な節電に努めています。具体的には、社内の照度基準を確保した上での照明の間引き、お客さまの少ない時間帯における駐車場の一部エリア閉鎖や一部エレベーターの運転停止、エスカレーターの人感センサー導入、きめ細かい館内の空調管理などが挙げられます。



省エネルギーの取り組み

LED照明

各モールの館内照明については、従来の蛍光灯や白熱電球から、より省電力かつ長寿命なLEDへの切り替えを進めています。近年にオープンしたモールでは共用部のLED採用率100%を達成。専門店にも新規モールオープン時や既存店リニューアル時にLEDの採用を呼びかけており、光の色や明るさが選べるようになってきたこともあって着実に切り替えが進んでいます。また、屋外の電飾サインにも消費電力の少ないLED光源ユニットを採用しています。



氷蓄熱システム

氷蓄熱システムは、最も電力消費の激しい夏季の昼間に使用する電力を抑制し、1日を通した消費電力を平準化します。電力負荷の少ない夜間の電気を利用して蓄熱槽に氷を蓄え、その熱エネルギーを営業時間の冷房に活用しています。



空調冷水カスケードシステム

当社が開発した「空調冷水カスケードシステム」は、複数の空調機をカスケード(連なった)配置とし、夏季の冷水搬送動力の低減ときめ細かな空調負荷対応を実現しました。冬季は館内の人体発熱や照明発熱を冷水で熱吸収させ、外気を温めて送風に利用。一般的なシステムと比較して約50%のエネルギー削減を可能にし、CO₂排出量削減に貢献します。

廃棄物削減とリサイクル

モールから出る廃棄物の削減では、専門店に協力をいただいて、「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにし、課題として意識づけることが重要です。各モールでは、廃棄物を基本17品目分別したうえで品目ごとに計量するシステムを導入しています。

専門店では各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめて廃棄します。分別されたごみのうち、可能なものについては極力リサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率を集計しています。2014年度のリサイクル率は84.3%でした。



分類を分かりやすく記したごみ庫。空調を備えて悪臭や害虫の発生を抑えています。



廃棄物は品目別に集計して計量。どの専門店がどれだけ廃棄物を出しているかをデータで把握しています。

環境コミュニケーション

各モールの環境負荷低減は当社の従業員だけで進められるものではなく、専門店やお客さまのご理解・ご協力が必要です。専門店のスタッフには小冊子の配布やバックヤードの掲示物などでご協力をお願いしています。また館内ではエコインフォメーションやエコベンチを通して各モールの環境に対する取り組みをご紹介しますとともに、エコバッグの持参やリサイクルへのご協力を呼びかけています。



エコインフォメーションでは太陽光発電システムの稼働状況などをご確認いただけます。



館内のごみ箱も4品目程度に分類。お客さまにも分別へのご協力をお願いしています。

2014年度の廃棄物排出総量とリサイクル率

	廃棄物排出総量	リサイクル率	
1	生ごみ	13,894t	88.3%
2	段ボール	17,995t	100.0%
3	雑芥	18,178t	58.5%
4	廃プラスチック	2,675t	99.0%
5	ビン	377t	99.0%
6	缶	635t	100.0%
7	発泡スチロール	106t	100.0%
8	廃油	1,657t	100.0%
9	紙類	2,581t	100.0%
10	粗大ごみ	165t	62.5%
11	その他不燃ごみ	1,325t	75.4%
12	廃蛍光灯	63t	89.0%
13	廃電池	8t	76.3%
14	割り箸	107t	99.1%
15	廃アルカリ剥離剤	34t	59.5%
16	汚泥	4,127t	86.7%
17	廃エンジンオイル	—	—
18	店頭回収:アルミ缶	77t	100.0%
19	店舗回収:食品トレイ	25t	100.0%
20	店舗回収:牛乳パック	87t	100.0%
21	店舗回収:ペットボトル	313t	100.0%

全社リサイクル率(サマール・リサイクル含む) 84.3%

資源回収・リサイクルの促進

イオンモールでは、ご家庭の古新聞や古雑誌をお持ちいただいたお客さまに重量に応じたリサイクルポイントを発行し、一定のポイントがたまるとうイオン商品券と交換するシステムを導入し、古紙のリサイクルを促進しています。回収はモールに設置した専用のボックスで行うため、お買い物のついでにいつでもお持ちいただける点でもお客さまからご好評をいただいています。また、お客さまのご家庭からペットボトルを回収し、WAONポイントを付与する取り組みも実施しています。



ecommo (エコモ) による古紙リサイクルポイントシステム(協力:国際紙パルプ商事株式会社)



ご協力いただいたお客さまにはWAONポイントがたまる、ペットボトルの自動回収機